

トルコギキョウの種子低温処理による 10～11月出し栽培

福島県農業試験場会津支場

平成13年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

花き—トルコギキョウ—育苗・作型・栽培型

分類コード 05-19-06180000

2 担当者

小林祐一・江川孝二・菅野 清

3 要旨

トルコギキョウの10～11月出し栽培は、生育後半の低温や寡日照により収穫遅延や切り花品質の低下を招きやすい。そこで、10～11月出しにおける種子の低温処理が収穫期や切り花品質に及ぼす影響について検討した結果、以下の結果を得た。

- (1) 低温処理する種子は、セル成型トレイに充填した用土に充分灌水してから播種をした。低温処理は、乾燥防止のためセル成型トレイをビニールで覆い、播種直後から暗黒下、10℃で35日間行った。低温処理終了後は、ハウス内で本葉2対葉展開期まで管理した。
- (2) ロゼット株の発生は、種子を低温処理した育苗、種子を低温処理しない育苗ともみられなかった。
- (3) 種子を低温処理すると、収穫株率や上位規格の割合が高くなった。また、収穫期は早まる傾向にあった。
- (4) 種子を低温処理した場合、収穫株率や品質の向上効果には品種間差がみられた。

以上のことから、播種直後の種子低温処理は、10～11月出しの作型で収穫株率や切り花品質の向上が認められた。

4 その他の資料等

なし